様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月　 ４ 日現在

機関番号：２７１０１
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３７２０２８８

研究課題名（和文）外国語環境下の中国語学習者に見られる語用論的転移研究―応答表現を中心に―

研究課題名（英文）Studies on Pragmatic Transfer by L2 Chinese Learners in Non-Target Language Environments: Responses to Thanks, Apologies, Compliments and Requests.

研究代表者
西　香織（NISHI, KAORI）

北九州市立大学・外国語学部・准教授

研究者番号：７０３９０３６７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　2,100,000円、（間接経費）　630,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では主に，非中国語（母語）環境下で中国語を学習する日本語母語話者と英語母語話者を対象に，感謝・わび（謝罪）・ほめ・依頼などに対してどのように応答するかを中国語母語話者の言語行動と比較した．
さらに，日本語母語話者の日本語によるそれぞれの応答のしかた，英語母語話者の英語による応答のしかたを調査し，中国学習者（日本語母語話者，英語母語話者）の中国語による言語行動に母語の語用論的転移が見られるかについて調査，分析を行った．結果，多くの場面において，母語の転移が見られた．

研究成果の概要（英文）：This study investigated the differences of speech acts in responses to thanks, apologies, compliments, and requests between Chinese native speakers and both American CFL learners and Japanese CFL learners studying Chinese in non-target language environments. Furthermore, we made comparative studies into responses to thanks, apologies, compliments, and requests between Chinese, English, and Japanese native speakers. The results showed that there are some signs of negative pragmatic transfer in CFL learners' speech acts.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：第二言語習得　中間言語語用論　応答表現　中国語

１．研究開始当初の背景

(1) これまで、学習者の「中間言語」の研究と言えば、文法（語法）レベル、統語論的レベルの研究が大多数を占めてきた。あるいは音声学的な研究も多かった。特に、第二言語としての中国語の中間言語研究は、学習者のアスペクト“了”の誤用、副詞の位置の習得、方位詞や方向補語の誤用、習得状況などに大きな関心が払われ、第二言語学習者の語用論的なレベルでの研究はほとんど行われてこなかった。日本の中国語教育においても、「コミュニケーション能力の育成」が叫ばれて久しいが、その面での研究は国内外ともにさほど進んでおらず、中間言語語用論（Interlanguage Pragmatics: ILP）的な研究自体が中国語においてほとんど進められていないのが現状である。

(2) 現行の中国語教材（テキスト）等においても同様のことが言える。「コミュニケーション重視」と謳われる教材が年々増えて行く中で、内容は本文がただ長文から対話形式に変わっただけで、学習内容、教授法について、この 20 年で大きな変化は見られず、文法訳読法のみ、または文法訳読法にオーディオ・リンガル・メソッドがプラスされたものを「コミュニケーション教育」と呼んでいることも少なくない。

(3) 中国語にかかわらず、特に、教材や教育の現場において「応答表現」、つまり相手の言葉に対して、どのように返答するかという部分はさほど重視されておらず、全く教えられていないこともある。そのため、学習者は「相手の言っていることは分かるが、何と答えてよいか分からない」という問題に直面することが多々ある。たとえ、応答表現が教材に提示されていたとしても、特に日本の教材においては、定型表現の多くは、特定の文脈から切り離された形で「あいさつ表現」、「常用表現]として挙げられており、学習者は母語の表現をもとにして応答することが多くなり、必然的に母語からの転移（transfer from L1）が大きく見られることになる。たまたま母語と第二言語との間に表現の大きな差異がなければ問題は生じないが、異なる場合には意図せずして相手を不快にさせることにもなりかねない。

２．研究の目的

(1) 本研究は第二言語習得研究（Second language acquisition: SLA）と語用論（Pragmatics）の中間的な分野に位置する中間言語語用論（Interlanguage Pragmatics：ILP）という角度から、第二言語としての中国語の学習者が真の中国語コミュニケーション能力を身につけるための一示唆を提示することを最終目的とする。

　その中でも、これまで中国語の研究において疎かにされてきた、特に日常生活におけるコミュニケーションで頻出する応答表現について、定型的な表現も含め、母語、その他の言語からの語用論的転移（pragmatic transfer）の有無を明らかにすることを目的とする。

(2) 本研究では、特に目標言語である中国語環境にいない（すなわち、非中国語環境下で学ぶ）中国語学習者――日本語を母語とする中国語学習者、及び（アメリカ）英語を母語とする中国語学習者――を対象とし、非中国語環境下で学習する学習者がどのような誤用を起こし得るか、母語の違いによってどのような差異が見られるかを、中国語母語話者の言語行動との比較の中で明らかにしていく。

３．研究の方法

(1) まず、中国、日本、アメリカで出版されている成人対象の中国語教材において、主に日常生活でよく見られるやりとりである「感謝」、「わび」、「ほめ」、「依頼」に対する応答についてどのような扱いがなされているかを調査した。

(2) 次に、主に同年代（20 代前半）の中国語母語話者、日本語母語話者、（アメリカ）英語母語話者、日本語を母語とする中国語学習者、（アメリカ）英語を母語とする中国語学習者の５グループに対して、自由記述式の談話完成テスト（discourse completion test: DCT）を行った。主に紙面による調査によったが、必要に応じてインタビュー調査を行った。

(3) 中国語母語話者に対しては、研究代表者が中国に滞在中に、主に大学生及び大学院生を対象に調査を行った。

　日本語母語話者と日本語を母語とする中国語学習者の日本語、中国語の調査は、研究代表者が所属する北九州市立大学外国語学部の中国学科の学生を主な研究対象とした。

　アメリカにおける英語母語話者の英語、中国語の調査にはアメリカアリゾナ州にある Embry-Riddle Aeronautical University（Prescott Campus）の Chen, Leeann 准教授に調査の協力を依頼すると共に、自身も本大学に赴き、主に中国語学習者との交流を持った。

４．研究成果

(1) 当初は「感謝」「わび」「ほめ」「依頼」に対する応答の言語行動（ストラテジー）について調査、分析する予定であったが、「感謝」「わび」に対する応答に時間を要し、「依頼」については、不完全なままで調査期間を終えてしまった。

中国語、日本語、（アメリカ）英語、日本語を母語とする者の中国語、英語を母語とする者の中国語という５グループの調査・研究はこれまでほとんどなく、異文化間の応答の差異、及び、学習者と中国語母語話者との差異、さらに、異なる母語を背景とするグループ間の差異など、興味深い結果を得ることができた。

(2) 「感謝」に対する応答については、いくつかの場面を用意したが、特に日本語母語話者の日本語に特異な応答表現が見られ（「すみません」「ありがとうございます」と応答する）、日本語を母語とする中国語学習者にも一部で同様の傾向が見られた。これは中国語母語話者その他では見られなかった応答表現である。

また、英語母語話者は「感謝」「わび」に対して、“No problem.”を多用していたが、中国語で同様の表現にあたる“没問題”には、「感謝」や「わび」に対する応答としての機能がない。その中で、英語を母語とする中国語学習者が“没問題”を多用していたことも目立っていた。

さらに、「上下関係」については、当初、日本語母語話者に最も大きな影響を及ぼすと予測していたが、実際には英語母語話者や英語を母語とする中国語学習者の言語行動に「上下関係」の差異による影響が大きく見られた。「上下関係」「親疎関係」によって異なる言語行動が大きくみられたのも英語母語話者であった。

(3) 「ほめ」については、これまで、西洋文化では「謙遜はせず、相手のほめを受け入れる」（“Thank you”など）といわれることが多く、日本や中国など東洋の文化では「謙遜が美徳」（「そんなことはありません」「いいえ、まだまだです」など）と考えられてきた。しかし、調査の結果は中国語母語話者や日本語母語話者に“謝謝”、「ありがとう（ございます）」「うれしいです」という表現が圧倒的に多く見られた。一方、英語を母語とする中国語学習者の言語行動に、謙遜の態度を示すものが多く見られた。これは授業や教科書などで「中国語文化では、ほめられたら謙遜する」と教えられ、また、ほめに対する応答も“哪里哪里”（とんでもありません）などの定型表現のみが教えられたことによる訓練上の転移(transfer of training）とも考えられる。

(4) 「依頼」に対する応答については、当初「承諾」の場合と「拒否」の場合とに分けて調査を実施する予定であったが、調査に遅れが生じた結果、中国語母語話者と日本語母語話者との比較をするにとどまった。ただ、その結果には興味深いデータがあり、中国語母語話者の方が、より上下関係に敏感で、たとえば、教師（目上）から自分の嫌いなもの、したくないことを依頼された場合には、日本語母語話者は遠回しに断る傾向があったのに対し、中国語母語話者は嫌でもその態度を見せずに「承諾」するという傾向が見られた。「依頼」については、中間言語語用論的な研究を行うことができなかったが、これまであまり注目されて来なかった現象が明らかになった。

(5) 調査の結果から、単純に「母語からの転移」と呼べないものも見られたが、日本の中国語教材（テキスト）は文脈が乏しく、また、あいさつ表現や定型の表現は、それらに対する応答表現も含め、文脈から切り離され、「あいさつ表現」「定型表現」として、表で提示されていることが多く、いずれも基本的なコミュニケーションにもかかわらず、学習者は文脈の中で学ぶことができず、教師自身もほとんど重視していない傾向が強い。

今回の調査を通じて、日本における中国語（もちろんその他の言語も同様であるが）の教授法、学習方法、教材のあり方などを改めて見直す必要があると強く感じる。

また、同じ言語を母語とする者の間でも言語行動に差異が見られるように、「語用論」的なレベルのものは扱いが非常に難しいものである。母語からの転移そのものが必ずしも「悪い」ものではないということは、補っておく必要がある。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計３件）

① 西　香織、中国語のわびに対する応答における中間言語語用論研究、中国語教育、査読有、第 11 号，pp.107-127、2013 年

② 西　香織、認知一致性在中日大学生称賛回応模式中的体現、北九州市立大学外国語学部紀要、査読無、第 134 号，pp.51-62、2013 年

③ 西　香織、美国漢語学習者的漢語感謝回応模式、Canadian TCSL Journal(加拿大中文教学学報)、査読有、Vol.2，No.2，pp.90-95、2012 年、http://www.canadiantcslassociation.ca/PDF/jor1217.pdf

〔学会発表〕（計８件）

① 西　香織、わびに対する応答の日中英対照研究、第 14 回東アジア国際日本語・日本文化フォーラム、2014 年 2 月 7 日、九州大学大学院・言語文化研究院

② 西　香織、遊請回応言語行為的漢日対比研究、第五届亜太地区国際漢語教学学会年会、2013 年 8 月 24 日、Asia Institute, the University of Melbourne, Melbourne, Australia

③ 西　香織、漢語学習者的漢語道歉回応策略、CLTA-GNY 2013 Annual Conference & the 11th New York International Conference on the Teaching of Chinese、2013 年 5 月 5 日、Seton Hall University, USA

④ 西　香織、従中介語語用学角度看漢語道歉回応策略、第四届亜太地区国際漢語教学学会年会、2012 年 10 月 13 日、Crowne Plaza Hotel - West Hanoi, Hanoi, Vietnam

⑤ 西　香織、美国漢語学習者的漢語感謝回応模式、Canadian TCSL Association2012 Annual General Meeting & International TCSL Conference、2012 年 8 月 26 日、Executive Airport Plaza Hotel & Conference Centre, Vancouver, Canada

⑥ 西　香織、日本人中国語学習者の感謝に対する応答―中間言語語用論的角度から―、中国語教育学会 10 周年・高等学校中国語教育研究会 30 周年記念合同大会、2012 年、6 月 3 日、神田外語大学

⑦ 西　香織、漢語学習者的感謝回応模式習得研究、第二届華文作為第二語言之教与学国際研討会、2011 年 9 月 9 日、Ngee Ann Polytechnic Convention Centre, Singapore

⑧ 西　香織、漢語学習者的漢語道歉回応模式習得研究、19th International Conference on Chinese Language Instruction、2011 年 4 月 30 日、Princeton University, USA

〔図書〕（計０件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

○取得状況（計０件）

〔その他〕
なし

６．研究組織
(1) 研究代表者
西　香織（NISHI Kaori）
北九州市立大学・外国語学部・准教授
研究者番号：７０３９０３６７

(2) 研究分担者
なし

(3) 連携研究者
なし

(4) 研究協力者
Chen, Leeann(陳麗安)
USA、Embry-Riddle Aeronautical University・Prescott Campus・准教授